



いこ
憩いの場で、人々の心をつなぎとめる…

福島町温泉健康保養センター 吉岡温泉ゆとらぎ館

従業員 堀 耕一 さん

今回は、吉岡温泉ゆとらぎ館の従業員を代表して、堀 耕一さん取材させていただきました。堀さんは平成26年1月からゆとらぎ館で働いており、今年で4年目となります。

ゆとらぎ館は「ゆとり」と「やすらぎ」の2つの言葉を重ねて名づけられ、平成6年に開館した日帰り温泉施設です。取材当日も多くの利用者が訪れ、湯船や休憩室でくつろぎ、お風呂上がりの飲み物を片手に語り合いながら、心身の疲れを癒やしていました。



▲ 青函トンネルのようなドーム状の外観

私はこれまで役場や食品会社、遺跡発掘等の仕事をしてきた中で、いつか人と関わる仕事をしたいと考えていました。ゆとらぎ館には年間6万人超の利用者があり、その大半が町民で、湯船に浸かって疲れを取るだけの場所ではなく、人々の憩いの場となっています。そのような場所で「もっと多くの人と関わり、交流を深めたい」「来館者同士の交流の輪を広げるお手伝いをしたい」と考えるようになり、ゆとらぎ館で働くことを決意しました。

問1. ゆとらぎ館で働くこととなったきっかけは何ですか？

男性従業員はお湯の管理や浴室の清掃といった施設管理を、女性従業員は受付や館内の清掃業務を中心にを行っています。受付では、お風呂上がりの定番である牛乳類のほか、果物ジュースやアイスクリームの販売を行っています。季節によっては、福島町産の野菜の直売も行っています。

また、毎月26日は『風呂の日』として無料チケットが当たるくじ引きを行っているほか、毎年2月には『吉岡温泉感謝まつり』を開催し、当日はゆとらぎ館を無料開放しています。

問2. 普段の活動内容を教えてください！



▲ 受付前にある牛乳等の販売スペース